

最終評価（表紙）

高岡市 歴史的風致維持向上計画（平成23年6月8日認定）
最終評価（平成23年度～令和2年度）

■ 統括シート（様式1）	2
■ 方針別シート（様式2）	
I 工芸技術及び地域固有の祭礼・年中行事の継承と育成	3
II 歴史的風致の核となる歴史的建造物の積極的な保存と活用	4
III 歴史的風致を形成する歴史的な町並みの保全と周辺環境の調和	5
■ 波及効果別シート（様式3）	
i 歩行者等通行量の増加	6
ii 住民意識の向上	7
iii 地域コミュニティの活性化	8
■ 代表的な事業の質シート（様式4）	
A 勝興寺大広間及び式台ほか11棟保存修理事業	9
B山町筋道路整備事業	10
■ 歴史的風致別シート（様式5）	
1 商人のまちと祭礼行事に見る歴史的風致	11
2 利長・利常への報恩感謝と前田家の遺産に見る歴史的風致	12
3 鋳物のまち金屋に見る歴史的風致	13
4 北の玄関口伏木・吉久と祭礼行事に見る歴史的風致	14
5 勝興寺と寺内町に見る歴史的風致	15
6 旧北陸道と菅笠づくりに見る歴史的風致	16
■ 庁内体制シート（様式6）	17
■ 住民評価・協議会意見シート（様式7）	18
■ 全体の課題・対応シート（様式8）	19

市町村名	高岡市	評価対象年度	H23～R2年
① 歴史的風致			
	歴史的風致	対応する方針	
1	商人のまちと祭礼行事に見る歴史的風致	I, II, III	
2	利長・利常への報恩感謝と前田家の遺産に見る歴史的風致	II	
3	鋳物のまち金屋に見る歴史的風致	I, II, III	
4	北の玄関口伏木・吉久と祭礼行事に見る歴史的風致	I, III	
5	勝興寺と寺内町に見る歴史的風致	I, II	
6	旧北陸道と菅笠づくりに見る歴史的風致	II, III	
② 歴史的風致の維持向上に関する方針			
	方針		
I	工芸技術及び地域固有の祭礼・年中行事の継承と育成		
II	歴史的風致の核となる歴史的建造物の積極的な保存と活用		
III	歴史的風致を形成する歴史的な町並みの保全と周辺環境の調和		
③ 歴史まちづくりの波及効果			
	効果		
i	歩行者等通行量の増加		
ii	住民意識の向上		
iii	地域コミュニティの活性化		
④ 代表的な事業			
	取り組み	事業の種別	
A	勝興寺大広間及び式台ほか11棟保存修理事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
B	山町筋道路整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	

市町村名	高岡市	評価対象年度	H23～R2年																														
方針	I 工芸技術及び地域固有の祭礼・年中行事の継承と育成	今後の対応	継続展開																														
① 課題と方針の概要 課題 「高岡銅器」、「高岡漆器」、「菅笠」の従事者数の減少が著しく、担い手不足が慢性化している。また、地域固有の祭礼・年中行事は、その地域の歴史と文化を見つめ直し、地域の人々の結束を図るためにも重要な役割を果たしているが、近年の少子高齢化やコミュニティの希薄化等に伴い、継承が困難となっている。 方針 「高岡地域文化財等修理協会」への活動支援や若年層を対象とした地元産業に係る体験学習プログラムである「ものづくり・デザイン科」、菅笠づくりの保存継承の取り組みを継続する。また、祭礼道具などの修理に対する支援とともに、資料の収集・保存及び調査・研究を通して体系的な記録保存を図り、その普及啓発に努める。																																	
② 事業・取り組みの進捗 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>項目</th> <th>推移</th> <th>計画への位置付け</th> <th>年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>高岡御車山保存修理事業</td> <td>修理件数22件(車輪、車軸、鉾留など)</td> <td>あり</td> <td>H17～</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>菅笠保全対策事業</td> <td>笠縫・笠骨講座受講者数170名(累計)</td> <td>あり</td> <td>H25～</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>伝統工芸産業希少技術継承事業</td> <td>育成者・継承者6組を支援</td> <td>あり</td> <td>H8～</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ものづくり・デザイン科推進事業</td> <td>受講児童・生徒数24,800名</td> <td>あり</td> <td>H18～</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>祭行事・イベント振興事業</td> <td>高岡御車山祭、伏木曳山祭、御印祭などに支援</td> <td>あり</td> <td>●～</td> </tr> </tbody> </table>					項目	推移	計画への位置付け	年度	1	高岡御車山保存修理事業	修理件数22件(車輪、車軸、鉾留など)	あり	H17～	2	菅笠保全対策事業	笠縫・笠骨講座受講者数170名(累計)	あり	H25～	3	伝統工芸産業希少技術継承事業	育成者・継承者6組を支援	あり	H8～	4	ものづくり・デザイン科推進事業	受講児童・生徒数24,800名	あり	H18～	5	祭行事・イベント振興事業	高岡御車山祭、伏木曳山祭、御印祭などに支援	あり	●～
	項目	推移	計画への位置付け	年度																													
1	高岡御車山保存修理事業	修理件数22件(車輪、車軸、鉾留など)	あり	H17～																													
2	菅笠保全対策事業	笠縫・笠骨講座受講者数170名(累計)	あり	H25～																													
3	伝統工芸産業希少技術継承事業	育成者・継承者6組を支援	あり	H8～																													
4	ものづくり・デザイン科推進事業	受講児童・生徒数24,800名	あり	H18～																													
5	祭行事・イベント振興事業	高岡御車山祭、伏木曳山祭、御印祭などに支援	あり	●～																													
③ 課題解決・方針達成の経緯と成果 <ul style="list-style-type: none"> ●高岡御車山保存修理事業 一番街通山車、通町山車、木舟町山車、守山町山車、二番町山車の車輪や鉾留等の修理、小馬出町本座衣装の修理等を実施し、文化財の保存とともに伝統産業技術の継承に繋がった。 ●菅笠保全対策事業 菅笠製作の後継者育成指導や研修により、それらの参加者から技術保持者として3人を新たに育成している。また、菅草栽培推進事業、新製品ブランド化等事業、菅笠製作過程漫画作成を実施した。これにより、菅笠製作技術の維持・存続に繋がった。 ●伝統工芸産業希少技術継承事業 技術継承が危ぶまれている高岡銅器、高岡漆器における希少な伝統的技術・技法を保持する育成者とその継承者6組に助成支援を行い、工芸技術の継承と後継者の育成、産地技術力の向上に繋がった。 ●ものづくり・デザイン科推進事業 市内小・中・特別支援学校の5年生、6年生、中学校1年生を対象に本市の伝統工芸である漆器、銅器等を中心に地元の優れた産業について、体験を通じた学習を実施し、伝統工芸に触れる機会を創出した。 																																	
																																	
		高岡御車山保存修理事業																															
																																	
		ものづくり・デザイン科の様子																															
④ 自己評価 地域固有の祭礼行事や伝統工芸産業の後継者不足に対する助成支援を行政が行い、新たな技術保持者を若干名ではあるが育成したことにより、一定程度の成果は得られた。また、子どもたちを対象とした取り組みを授業の一環として行うことで、伝統工芸に触れる機会を創出した。一方で、少子高齢化や世代交代により、依然として従事者が減少し、後継者不足となることは課題として残る。																																	
⑤ 今後の対応 引き続き、祭礼行事や伝統工芸産業の後継者不足に対する支援を行い、それらの継承を図るとともに、子どもたちを対象にした取り組みも継続していくことで、伝統工芸に触れ地域固有の歴史・文化であることを認識し、未来の伝承者や理解者へ育つような環境を醸成していく必要がある。																																	

市町村名	高岡市	評価対象年度	H23～R2年
方針	Ⅱ 歴史的風致の核となる歴史的建造物の積極的な保存と活用	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

課題

指定文化財は保存・活用が図られているものの、登録有形文化財は保存や修理に関する取り組みが十分とは言えず、適切な維持管理が行われないまま老朽化が進んでいる。また、町家や旧商家等の歴史的建造物の基礎調査が不十分であることに加え、その歴史的な価値の認識不足、所有者の高齢化や後継者不足等の要因により、老朽化や消失が急速に進んでいる。

方針

指定文化財については引き続きその保存と活用を行い、登録有形文化財については歴史的風致形成建造物の指定等による保存・活用を図るとともに、その公開にも努めていく。また、未指定のものについては、継続的な基礎調査を行い、必要があれば史料調査と研究を行なった上で、必要な法令に基づく保護措置を図る。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	瑞龍寺山門ほか8棟保存修理事業	禅堂、山門、総門などを修理	あり	H24～
2	前田利長墓所整備事業	整備基本計画策定、樹木整理など	あり	H25～
3	勝興寺大広間ほか11棟保存修理	大広間、式台、経堂など修理	あり	H17～
4	市内町家等再生事業	修理件数8件	あり	H24～
5	歴史的資産を活用した町家再生事業	商業施設に利活用、テナント全8区画入居	あり	H28～30

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

●瑞龍寺山門ほか8棟保存修理事業

柿葺屋根等に傷みがみられる禅堂、山門、総門などの保存修理を実施したことによって、文化財の保全を図った。



●前田利長墓所整備事業

保存管理計画及び整備基本計画に基づく復原修理事業として玉垣の旧部材調査、擬木柵・護岸の復旧、樹木整理などを実施したことによって、史跡の保全が図られた。



瑞龍寺保存修理事業（大庫裏）

●市内町家等再生事業

登録有形文化財をはじめとする市内の町家等を歴史的風致形成建造物に指定し、その修理に対し補助金を交付することによって、文化財の保全を図った。



●歴史的資産を活用した町家再生事業

山町筋において既存の伝統的建築物を活用し、複合商業施設であるとともに町民文化の情報発信を行う交流拠点である「山町ヴァレー」を整備した。この整備した全8区画にテナントが入居し、山町筋の賑わい創出に繋がっている。（利用者数約2～3万人／年）



市内町家等再生事業（有藤家）

④ 自己評価

国・県・市の指定文化財等について、その修理や再生等の各種事業により、それらの保存及び活用が一定程度図られた。特に、民間の活力を生かした事業において、一定の効果が得られた。また、歴史的風致形成建造物については、一定程度保全が図られ、公開しているが、まだ保全が図られていないものが約半数残っている。

⑤ 今後の対応

国・県・市の指定文化財については、継続的に保存修理を実施していく。国の登録有形文化財については、所有者等と話し合いながら、必要に応じて歴史的風致形成建造物に指定し、保全を図っていく。歴史的風致形成建造物については、所有者等と話し合いながら、必要に応じて修理を行い、保全を図る。保全が図られたものについては、その価値を広く周知し、本市固有の歴史資産の魅力を知ってもらうため、公開に努める。

市町村名	高岡市	評価対象年度	H23～R2年
方針	Ⅲ 歴史的風致を形成する歴史的な町並みの保全と周辺環境の調和	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

課題

伝統的な建築様式をもつ町屋が取り壊され、徐々に空き地や駐車場等になっていることから、歴史的な町並みの破壊が危惧される。電線類やけばけばしい色彩の広告物が、良好な町並み景観を阻害している。街道や小路などに過度に流入する自動車などによって、安心して散策できる歩行空間が確保されていない。

方針

歴史的な町並みにおいては、市の諸計画に基づく事業と連動しながら、町家等を店舗や一時滞在施設等、高岡の魅力を向上させる観光資源として活用を促進するなど町並み全体としての保全を図る。景観計画に基づく規制誘導など良好な景観の形成を推進するとともに、歴史的な文脈に沿った整備を心がけ、無電柱化や自動車の流入抑制を行うなど、歴史に触れながら安心して散策できる歩行空間の創出を図る。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	重要伝統的建造物群保存地区保存修理	建築物等の修理49件、修景10件	あり	H13～
2	道路修景整備事業	整備路線 7路線(内5路線が完了)	あり	H19～
3	町並み保存・都市景観形成補助事業	建物修景補助28件	あり	H21～
4	景観計画の変更	色彩基準の新設、届出対象行為の拡大	あり	H21～
5	金屋町定住体験施設整備事業	施設利用実績:H30.5～H31.4 166名 R1.5～R1.10 303名	あり	H28～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

●道路修景整備事業

平成24年に策定した「たかおかストリート構想」に基づき、歴史的風致を堪能できる歩行系回遊ルートを整備を図るため、山町筋の無電柱化や瑞龍寺道などの道路修景整備を実施し、歴史に触れながら安心して歩ける歩行空間の創出を図った。

●町並み保存・都市景観形成補助事業

景観形成重点地区および景観づくり住民協定地区内で、景観づくり基準に適合し、景観形成に寄与する集計を行う者等に対して補助を行い、歴史的な町並みとの調和を図った。

●景観計画の変更

市全域に適用している景観づくりの基準に色彩基準(マンセル値設定)を新設し、届出対象行為を拡大(高さ・建築面積)したほか、敷地緑化の目安を設定することで周辺環境との調和を図った。

●金屋町定住体験施設整備事業

金屋町の空き家対策や移住定住の促進に取り組む住民主体のNPO法人によって伝統的建築物を改修した宿泊体験施設を整備した。行政としては、補助金によりその施設整備に対して支援した。事業により町並みの保存へ向けた空き家の解消や人口減少・高齢化に一定の歯止めをかけ、地域のものづくり産業の新たな担い手の創出に寄与している。



H19



山町筋無電柱化事業 H23

④ 自己評価

無電柱化による道路修景整備や景観形成重点地区等における建物修景補助のほか、景観計画における色彩基準等の追加や屋外広告物の適正化によって歴史的な街並みに調和した良好な景観形成が図られた。一方で、道路修景整備についてはまだ完了していないものがある。また、伝統的な建築形式をもつ町家については、民間が主体となり店舗等に活用した取組が一定の成果を得られているため、さらに活用が進むような取り組みが必要である。

⑤ 今後の対応

建物修景補助や屋外広告物の適正化における取組は、歴史的な街並みに調和した良好な景観形成が図られ、一定の効果が得られたため、継続して取り組むことにより歴史的な街並みの一層の保全に努める。また、伝統的な建築形式をもつ町家等について、行政以外の活力を生かした活用を推進するような取組を進める。なお、道路修景整備については、未完了の2路線について引き続き取り組む。

市町村名	高岡市	評価対象年度	H23～R2年
効果	i 歩行者等通行量の増加		

① 効果の概要

中心商店街・観光地周辺における歩行者・自転車通行量の増加

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	中心市街地活性化基本計画	あり	H19～
2	たかおかストリート構想	あり	H23～
3	高岡市新サイン計画	あり	H25～

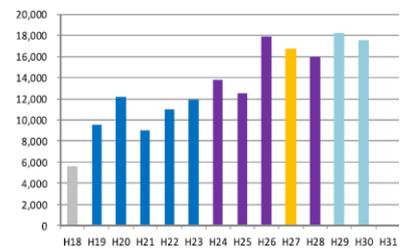
③ 効果発現の経緯と成果

●中心市街地活性化基本計画

同基本計画の基本方針である「行き交う人で賑わうまち」の実現に向けて中心市街地への来街者を増やすために「交流人口の拡大」を目標とした各種事業に取り組んだ結果、中心商店街・観光地周辺における歩行者・自転車通行量の増加に繋がった。

【中心商店街・観光地周辺における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値】

H23 12,911人／日 → H30 17,517人／日（約36%増）



歩行者・自転車通行量の推移

●たかおかストリート構想

当市を訪れた観光客が歴史・文化、ものづくりの伝統が醸し出す高岡独特の風情やたたずまいを、見て、触れて、感じながら歩くことができる歩行系回遊ルートの設定と歩くこと自体を楽しんで散歩できるように、ハード・ソフト両面から整備や魅力づくりを進めるための方策を示した「たかおかストリート構想」を策定した。本構想に基づきこれまでに山町・金屋道路などの修景整備によって安心して歩ける道路空間を創出した。



道路修景整備事業
（山町・金屋町道路整備事業）

●高岡市新サイン計画

たかおかストリート構想で設定した歩行系回遊ルートを中心に歩行者案内板や誘導板を整備した。これによって拠点施設の案内性と来訪者の回遊性向上が図られた。



歩行者案内・誘導サイン

④ 自己評価

重要伝統的建造物群である山町筋地区や金屋地区の道路修景整備などの歴史的風致の維持向上に係る各施策を実施したことで歴史的な町並みと調和したことや回遊性が高まったことで、点ではなくエリアとして魅力が向上し、歩行者等の増加に繋がったと評価できる。

⑤ 今後の対応

たかおかストリート構想では、歩行者案内板や誘導版の設置は行われてきたが、休憩施設やトイレ等の快適に歩ける空間づくりについては把握されていないため、それらの調査から行う。また、必要に応じて、案内板等の更新を行い、回遊性の向上を図るとともに、道路修景整備による安全に散歩できる歩行空間の創出を図っていく。

市町村名	高岡市	評価対象年度	H23～R2年
効果	Ⅱ 住民意識の向上		

① 効果の概要

住民による歴史的資産を活用した取り組みの展開

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	景観づくり住民協定(富山県)	なし	H15～
2			
3			

③ 効果発現の経緯と成果

●まちづくり協議会の結成と景観づくり住民協定の締結

勝興寺寺内町ではまちづくり協議会が組織され、勝興寺に通じる参道として風情漂う落ち着いたあるまじい景観づくりを進めることを目的とした、「勝興寺寺内町通り景観協定」が締結された。これによって町並み保全に対する意識の向上に繋がっている。



勝興寺まちづくり協議会

●NPO法人の設立

金屋町の空き家対策や移住定住の促進に取り組む住民主体のNPO法人が設立され、移住者が空き家の町家を活用した飲食店を開業するなど地域の活性化と町並みの保全に繋がっている。



NPO法人金屋町元気プロジェクト
定例会の様子

●伝統産業を題材にした映画の製作

地元の映画制作会社や実行委員会により、金屋町が舞台で鋳物師を主人公にした映画「デンサン」が製作され、試写会を通じて伝統産業に対する市民意識の向上に繋がった。



映画「デンサン」ポスター

④ 自己評価

これまでに実施してきた歴史まちづくりの取り組みや高岡御車山祭のユネスコ無形文化遺産登録などの成果によって、歴史的資産の保存・活用に対する住民意識が高まり、住民主体による活動も展開されるようになったと評価できる。

⑤ 今後の対応

引き続き、まちづくり団体や住民が主体となって町家再生等に取り組む団体と連携し、その地域の景観づくりや町並み保全に対する取り組みを行うことで、住民主体の活動の活性化を図るとともに、歴史的風致に対する住民意識のより一層の向上を図っていく。

市町村名	高岡市	評価対象年度	H23～R2年
効果	Ⅲ 地域コミュニティの活性化		

① 効果の概要

旧町名の復活によって地域コミュニティが活性化し途絶えていた獅子舞が復活した。

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	高岡市住居表示整備審議会に関するもの		
2			
3			

③ 効果発現の経緯と成果

当市の「歴史都市」認定を受け、歴史的文化遺産である町名の継承と復活を通じた地域コミュニティの再生を目的に高岡商工会議所では平成23年11月に「高岡の旧町名復活を推進する会」が発足し、復活候補に想定する自治会に対する説明会の開催や同じ加賀藩としての歴史を共有する金沢市と連携して旧町名復活に関するシンポジウムを開催するなど旧町名復活に向けて取り組んできた。

そして、平成27年4月に高岡開町時から存在した袋町と平米町の2つの旧町名が復活した。

当市では住所変更による負担の軽減するための財政的支援や旧町名が刻まれた石柱を設置している。

旧町名が復活したことによって、袋町では10年ぶりに獅子舞が復活し、地域コミュニティの強化に繋がっている。



旧町名の復活（袋町・平米町）



10年ぶりに獅子舞が復活



旧町名が彫られた石柱の設置

④ 自己評価

旧町名の復活により、地域固有の祭礼行事である獅子舞が復活したほか、地域コミュニティの結束が強まったり、「商人のまちと祭礼行事に見る歴史的風致」の高岡の町民文化の歴史に対する地域住民の意識向上にも繋がっている。

⑤ 今後の対応

引き続き、地域で行う獅子舞などの祭行事やイベントの活性化を図ることで、多方面から高岡の歴史や伝統を再認識を図っていく。また、より多くの市民に高岡の歴史について、誇りや愛着を持ってもらうため、祭りなどの地域の行事に参加するなどといった市民参加型の取り組みを推進していく。

市町村名	高岡市	評価対象年度	H23～R2年
取り組み	A勝興寺大広間及び式台ほか11棟保存修理事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p>① 取り組み概要</p> <p>勝興寺の本堂を除く大広間及び式台等の重要文化財11棟の保存修理事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●設計監理：公益財団法人文化財建造物保存技術協会 ●修理方針 <ul style="list-style-type: none"> ・建築当初材を出来るだけ再利用し、取替材を最小限度とする。 ・建築当初の材料、技法（組立て方等）を世襲する。 ・改造個所を調査して、建築当初の姿とその変遷を究明する。 ・古文書・古写真等による歴史調査 ・技法・改造個所等の調査記録、歴史調査事項を修理工事記録として共に工事報告書として刊行する。 ●修理内容 <ul style="list-style-type: none"> ・大広間及び式台（H23～27） ・台所（H23～24） ・唐門（H25～26） ・書院及び奥書（H26～29） ・宝蔵・式台門（H27～29） ・御内仏及び御霊屋（H28～29） ・経堂・鼓堂（H29～R1） ・式台玄関、式台脇玄関、配膳室、本堂渡り廊下（H30～R1） ・総門（R1～） 			
<p>② 自己評価</p> <p>本市の北部地域の歴史的風致の核となる歴史的建造物である勝興寺が、本堂の修理（H10～17）を含め23年間に及ぶ大修理によって、その歴史的文化財価値は一層高まった。また、修理現場を一般公開することで文化財そのものやそれが織りなす歴史的な背景について市民等の関心を高まりに繋がった。一方で、その周辺の歴史的な町並みについて、道路修景整備は未完了である。</p>			
外部有識者名			
外部評価実施日			
<p>③ 有識者コメント</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p style="text-align: center;">※今後対応予定</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>			
<p>④ 今後の対応</p> <p>歴史的風致の核となる建造物と一体を織りなす周辺環境の整備を引き続き取り組むほか、地域におけるイベント等を推進することで、勝興寺を核とした歴史的風致の更なる向上に努める。</p>			



式台玄関、式台脇玄関



経堂

市町村名	高岡市	評価対象年度	H23～R2年
取り組み	B 山町筋道路整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設

① 取り組み概要

山町筋の位置する御馬出町、守山町、木舟町、小馬出町の580m区間では、100件を超える伝統的建造物が建ち並んでおり、その景観は、明治に防災のための都市計画として建てられた土蔵造りの町並みを特徴としている。当事業は、この町並み景観の要素の一つである公共空間の整備(無電柱化)を行ったもの。

● 整備概要

- 路線延長550m、道路幅員11m
 ・電線共同溝管路工事 ・側溝工事
 ・消雪工事 ・街路灯 ・路面整備

事業実施にあたっては、沿線住民によるワークショップを実施し、道路舗装や照明灯のデザイン、民有地に設置する地上機器の場所などについて検討した。また、祭事に併せて各戸で設置していた屋根付きの提灯を復活させた。



山町筋(整備前)



山町筋(整備後)

② 自己評価

重要伝統的建造物群の山町筋地区内の主要道路について、町並みの景観を阻害していた電柱等を撤去したことにより、歴史的な街並みに調和した良好な景観形成が図られた。また、これらの取り組みが後押しとなり、民間が主体となり取り組んだ町屋を再生した複合商業施設が開店するなど、歴史的建造物を利活用しながら地域の活性化にも寄与した。

さらに、来訪者へのおもてなしを切り口としたまちの活性化への協議会を立ち上げるなど、地域住民が自らの力でまちを活性化しようと意識の変化があらわれている。

外部有識者名	
外部評価実施日	

③ 有識者コメント

.....

.....

※今後対応予定

.....

.....

.....

④ 今後の対応

道路修景整備などのハード整備は完了し、民間主体の町家再生等の一定の効果がみられたことから、歴史的な町並みを紹介したりイベントを行うことで市民等に広く周知し、地域固有の歴史的風致の価値向上へ繋げる。

市町村名	高岡市	評価対象年度	H23～R2年
歴史的風致	1商人のまちと祭礼行事に見る歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 工芸技術及び地域固有の祭礼・年中行事の継承と育成 II 歴史的風致の核となる歴史的建造物の積極的な保存と活用		

① 歴史的風致の概要

高岡経済の中心地であった山町には、高岡の誇る金工・漆工の結晶でもある高岡御車山祭（重要有形・無形民俗文化財、ユネスコ無形文化遺産）が守り伝えられ、繁栄を極めた山町筋の重厚な土蔵造りの町並み（重要伝統的建造物群保存地区）と相まって、壮麗かつ端正なたたずまいを醸し出している。

② 維持向上の経緯と成果

●高岡御車山会館整備事業

重要有形民俗文化財「高岡御車山」の山車の展示を中心に、重要無形民俗文化財となっている同祭の行事内容、山町筋の文化、山車に集約される金工・漆工などの伝統工芸技術などを見学・学習できる施設を整備した。（来館者数約5万人/年）

事業により山町筋の沿道景観の改善が図られるとともに、高岡の誇る金工、漆工の工芸技術の普及啓発に繋がっている。



高岡御車山会館整備事業
H27.4

●歴史的資産を活用した町家再生事業

山町筋において地元のみちづくり会社が主体となって既存の伝統的建築物を活用し、町民文化の情報発信や山町筋の賑わい創出を行う交流拠点を整備した。（利用者数約2～3万人/年）

●土蔵造りのある山町筋イベント助成事業

土蔵造りの伝統的建造物が集積する山町筋で、町並みの紹介、観光産業の創出等を目的として各種イベントを開催した。

- ・高岡山町筋土蔵造りフェスタ（毎年8月下旬）
- ・山町筋の天神様祭（毎年1月下旬）
- ・山町筋のひなまつり毎年（毎年3月中旬）

事業により来場者に高岡開町以来の伝統文化に触れる機会を提供するとともに、住民同士や来場者との交流による歴史的な町並みの保全にもつながっている。



高岡御車山祭の様子



歴史的資産を活用した町家再生事業
（山町ヴァレー）
H29.4

③ 自己評価

この10年間に於いて、歴史的な町並みを構築する歴史的資産の活用や祭礼行事を後世に伝え保存していく施設の整備などハード整備を中心に実施し、一定の効果が得られている。また、各種イベント等により高岡の町民文化を広く周知することができた。

一方で、施設の利用者が減少傾向であることから新たな利用者やリピーターの獲得に向けた取り組みに課題が残る。

④ 今後の対応

地域固有の祭礼行事や歴史的な町並みを保存していくためには、ハード整備を完了して終わりではなく、地域活性化のために活用できるイベント等のきめ細やかなソフト事業の継続が重要であるため、今後も伝統文化に触れる機会を提供するような催しを継続して取り組む。

市町村名	高岡市	評価対象年度	H23～R2年
歴史的風致	2 利長・利常への報恩感謝と前田家の遺産に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅱ 歴史的風致の核となる歴史的建造物の積極的な保存と活用		

① 歴史的風致の概要

利長の菩提寺であり曹洞宗の七堂伽藍をよく残す瑞龍寺(国宝)では、ひとつやいとや燭光能といった利長と民衆を結び付ける行事が今も執り行われ、八丁道や前田利長墓所(国指定史跡)とともに利長の遺徳を偲び、感謝と畏敬の念を表する荘厳な雰囲気満ちている。

② 維持向上の経緯と成果

● 瑞龍寺山門ほか8棟保存修理事業

瑞龍寺は前田利長の菩提寺として建立された曹洞宗寺院であり、七堂伽藍の内では、ひとつやいとや燭光能といった行事が今も執り行われている。山門等の柿葺屋根等に傷みが見られることから保存修理を実施した。

事業により瑞龍寺の文化財的価値の向上が図られた。



瑞龍寺保存修理事業(山門)

● 前田利長墓所整備事業

保存管理計画及び整備基本計画に基づき内堀範囲確認調査、玉垣カルテ作成、樹木整理を実施したことによって、文化財的価値の向上や外側からの眺望景観の改善が図られた。



前田利長墓所整備事業
(樹木整理による御廟の顕在化)

● 瑞龍寺道整備事業

瑞龍寺道は北陸新幹線新高岡駅から高岡開町時に通された庄方用水沿いを通り、旧井波道を抜け、国宝瑞龍寺に至る道であり、舗装・側溝・道路照明灯・防護柵等の修景整備を実施した。

事業によって、道路景観の改善が図られるとともに、歴史に触れながら安心して散策できる快適な歩行空間の創出にも繋がった。



瑞龍寺道整備事業

③ 自己評価

瑞龍寺の保存修理や前田利長墓所整備事業によって、それぞれの文化的価値の向上が図られ歴史的風致の向上に寄与した。

瑞龍寺における熱中寺子屋の開催や八丁道を利用したおもしろ市など歴史的資産等の活用が図られている。

④ 今後の対応

日本遺産に利長利常と町民たちのストーリーが認定されことで、日本遺産の構成文化財である瑞龍寺や前田利長墓所などの付加価値が高まっているため、情報発信を図り、地域の価値向上に繋げる。特に、前田利長墓所については保存管理計画及び整備基本計画に基づき、引き続き復原修理に取り組む。

市町村名	高岡市	評価対象年度	H23～R2年
歴史的風致	3 鋳物のまち金屋に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 工芸技術及び地域固有の祭礼・年中行事の継承と育成 II 歴史的風致の核となる歴史的建造物の積極的な保存と活用		

① 歴史的風致の概要

高岡鋳物発祥の地である金屋町には、利長の命日に報恩感謝の念を表す御印祭が守り伝えられ、弥栄節（やがえふ）を謡いながら練り歩く様が、繊細で美しいさまのこの町家やレンガ積みのキュポラが良く残る町並みと相まって、鋳物師たちの心意気と情緒を醸し出している。

② 維持向上の経緯と成果

●金屋町定住体験施設整備事業

金屋町の空き家対策や移住定住の促進に取り組む住民主体のNPO法人によって伝統的建築物を改修した宿泊体験施設を整備した。行政としては、補助金によりその施設整備に対して支援した。事業により町並みの保存へ向けた空き家の解消や人口減少・高齢化に一定の歯止めをかけ、地域のものづくり産業の新たな担い手の創出に寄与している。

施設利用実績：H30.5～H31.4 166名 R1.5～R1.10 303名



金屋町定住体験施設(さまのこハウス)
H29.5

●ミラレ金屋町開催事業

産学官が連携して、ストリートマーケットとイベントを組み合わせた工芸と生活と産業が同居するゾーンミュージアムとなる「金屋町楽市」や、後続事業で、町家暮らしや伝統文化を体験する「ミラレ金屋町」を開催した。

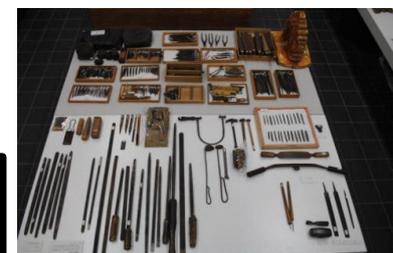
事業により来場者（約2万人/年）に伝統的な町家や文化に触れる機会を提供するとともに、地域の賑わい創出や当地区及び当市の知名度向上にも繋がっている。



ミラレ金屋町の様子

●高岡鋳物資料整備・調査事業

登録有形民俗文化財「高岡鋳物の製作用具及び製品」等について、資料の詳細調査及びデータベースを整備したことにより、資料の適切な保存・管理が図られるとともに、研究用資料としても活用され、鋳物生産に関する歴史や技術の伝承にも繋がっている。



高岡鋳物の製作用具及び製品

③ 自己評価

地元主体のNPO法人や産学官の連携など、行政以外の活力を生かした事業において一定の効果が得られた。

高岡鋳物資料のデータベースは整備したが、市の博物館及び美術館に所蔵されている約9000点の鋳物資料についても追加調査が必要である。

④ 今後の対応

民俗行事の継承や町並みの保存については、少子高齢化などにより後継者不足や町並みを構成する建造物の利活用が促進されない現状にある。行政だけでなく民間からの活力を生かした事業が一定の効果が得られたため、今後も歴史的な建造物の利活用が進むような取り組みを推進する。また、鋳物資料の調査を引き続き取り組み、祭礼行事の継承と地域の活性化に繋げる。

市町村名	高岡市	評価対象年度	H23～R2年
歴史的風致	4 北の玄関口伏木・吉久と祭礼行事に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 工芸技術及び地域固有の祭礼・年中行事の継承と育成 II 歴史的風致の核となる歴史的建造物の積極的な保存と活用		

① 歴史的風致の概要

古くから海運（北前船）で栄えた伏木には、「かつちゃ」と呼ばれる山車同士をぶつけ合う勇壮な伏木曳山祭（けんか山）が伝えられ、町家や和洋折衷建築と相まって、みなと町らしい風情を醸出している。

また、加賀藩最大の御蔵所であり、米の集散地として栄えた吉久には、荒々しく豪快な獅子舞が伝えられ、美しい吉久独特の町家と相まって、かつての米商たちの繁栄ぶりを物語っている。

② 維持向上の経緯と成果

●歴史的風致形成建造物の指定・修理（丸谷家住宅）

吉久地区の伝統的建築物である丸谷家住宅を歴史的風致形成建造物に指定し保存修理を実施することで歴史的な町並みの保全を図った。



市内町家等再生事業（有藤家）

●伏木曳山祭用具修理事業

伏木神社春季例大祭の伏木曳山祭（けんか山）は、みなと町伏木の性格や町民の気質を色濃く反映した祭礼行事であり、そこで曳き回される山車は高岡のものづくりの粋を集めた工芸品である。金工や漆工などのものづくり技術の継承、ものづくりによって文化財が正しく保存・活用されるまちづくりを目指す事業の一環として伏木曳山祭の祭礼用具を修理した。

事業によって祭礼の保存と継承が図られたとともに伏木曳山祭（けんか山）のより一層の魅力向上に繋がった。

●祭行事・イベント振興事業

歴史的風致の重要な要素であり、長年変わらずに続けられている伏木曳山祭などの地域の伝統行事の活動に助成することによって、これらの継承を図った。

●「高岡再発見」プログラム事業

子どもたちを対象に、家族と一緒にスタンプラリー形式で歴史の薫る町並みや建造物、祭礼行事の見学・参加などを行うなかで、「北前船コース」を設け、歴史的風致について理解を深めた。



伏木曳山祭の様子

③ 自己評価

歴史的風致形成建造物の修理事業や祭礼行事に係る用具の修理事業が完了したことで、歴史的な町並みの保全とそれに係る固有の祭礼行事の保存に繋がった。

また、子どもだけでなく家族で一緒に参加できる取組を通して、この地域固有の歴史的風致を広く周知することができ、一定の効果があつた。

④ 今後の対応

日本遺産に北前船のストーリーが追加認定されことで、日本遺産の構成文化財である伏木曳山祭や旧秋元家住宅などの付加価値が高まっているため、情報発信を図り、地域の価値向上に繋げる。

市町村名	高岡市	評価対象年度	H23～R2年
歴史的風致	5 勝興寺と寺内町に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅱ 歴史的風致の核となる歴史的建造物の積極的な保存と活用 Ⅲ 歴史的風致を形成する歴史的な町並みの保全と周辺環境の調和		

① 歴史的風致の概要

浄土真宗本願寺派の古刹である勝興寺（重要文化財）では、御満座法要などの宗教行事や地域行事が地域の人々の手によって今も執り行われ、子寺・役寺の寺院建築や伝統的な町家などの歴史的建造物とともに独自の寺内町を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

●勝興寺大広間及び式台ほか11棟保存修理事業

一向一揆の拠点ともなった浄土真宗の大寺院である勝興寺において本堂の修理（H10～17）に続き大広間、式台、総門、経堂などの保存修理を実施した。

事業により勝興寺の文化財的価値の向上が図られた。



勝興寺保存修理事業（経堂）

●まちづくり協議会の結成と景観づくり住民協定の締結

勝興寺寺内町においてまちづくり協議会が組織され、勝興寺に通じる参道として風情漂う落ち着いたあるまじい景観づくりを進めることを目的とした、「勝興寺寺内町通り景観協定」が締結された。これによって町並み保全に対する意識の向上に繋がっている。



景観まちづくり住民協定の締結（勝興寺寺内町）

●勝興寺寺内町道路修景整備事業

勝興寺と伏木北前船資料館（旧秋元家住宅）を結ぶ勝興寺の旧参道において、景観まちづくり住民協定（「勝興寺寺内町通り景観協定」）の締結により、歴史的な町並みに調和した道路修景整備に取り組んだ。

●高岡市歴史文化構想を活用した観光拠点づくり事業

勝興寺においては、ふるこはんフェスやシンポジウムなどのイベントを開催した。

事業によって勝興寺の魅力を市内外に広く発信している。



ふるこはんフェスの様子（勝興寺）

③ 自己評価

勝興寺の保存修理による文化財価値の向上や同院を活用したふるこはんフェスなどの各種イベントを通じて、地域の歴史を再認識することで市民意識の向上が図られた。

勝興寺寺内町道路修景整備事業について、関係機関との調整に不測の時間を要したことにより計画期間内に完了できなかったため、引き続き取り組む必要がある。

④ 今後の対応

当該歴史的風致の核である勝興寺について保存修理が完了したことで本市固有の歴史的資産の魅力を認識してもらうため、公開などにより情報の発信と活用を図る。

また、引き続き、勝興寺寺内町道路修景整備事業に取り組むことや景観まちづくり住民協定の制度を利用した建物修景補助を推進し、勝興寺の旧参道としての魅力ある道路空間の創出や歴史的な町並みの保全を図る。

市町村名	高岡市	評価対象年度	H23～R2年
歴史的風致	6 旧北陸道と菅笠づくりに見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 工芸技術及び地域固有の祭礼・年中行事の継承と育成 Ⅲ 歴史的風致を形成する歴史的な町並みの保全と周辺環境の調和		

① 歴史的風致の概要

古来の主要官道である北陸道沿いには、宿場町や特産品の集散地（在郷町）として発展した和田、立野の古い町並みが連なり、地域色のある祭礼・年中行事とともに往時のたたずまいを残している。

また、菅笠が最大の特産であり、また周辺の集散地でもある福岡町では、菅の栽培や菅笠製作といった日常の営みが、かつての菅笠問屋である伝統的な町家とともに、歴史的な風情を醸し出している。

② 維持向上の経緯と成果

●町並み保存・都市景観形成補助事業

景観形成重点地区において景観形成に寄与する建築物等の修景を行う者に補助することによって、旧菅笠問屋の遺構が残る旧北陸道の街並みに調和した景観の形成を図った。（修景補助実績件数 14件）

●菅笠保全対策事業

重要無形民俗文化財である越中福岡の菅笠製作技術の維持・存続に向けて、笠縫講座と笠骨講座を設け、菅笠づくりの後継者育成指導や研修、菅田保全のための調査、新商品の開発や販路開拓などに取り組んだ。（笠縫講座 131名、笠骨講座 39名 累計）

●菅栽培調査事業

菅笠づくりの原材料の確保や菅干の文化的な景観の向上に向けて菅田の栽培に関する肥料対策・病害虫対策・乾燥技術等の試験的調査を実施し、菅田作付面積の増加を図った。

また良質な菅栽培を取り組むため、生産組合の結成を行い、菅笠製作技術保存会と連携した。

●県道岡笹川線道路整備事業

旧菅笠問屋の遺構が残る旧北陸道において歴史的な町並みに調和した道路空間を創出するため道路修景整備に取り組んだ。



H24



町並み保存・都市景観形成補助事業
（旧北陸街道福岡地区）

H25

③ 自己評価

建物修景補助によって、旧北陸道の街並みに調和した景観形成や景観に対する住民意識の向上に繋がっているが、修景補助における実績は全体の約1割に留まっている。

当該歴史的風致の重要な構成要素である菅笠づくりは、担い手の育成における取組を実施し、技術保持者として3人の育成を行ったが、少子高齢化等による後継者不足には課題が残る。また、栽培方法について、良質な菅を栽培するために組合の結成や技術保存会との連携はできたが、肥料数量や病害虫対策など良質な菅の栽培の確立や、産業として振興させるためには、販路開拓などに引き続き取り組む必要がある。



菅笠製作後継者育成講座（菅縫い）

④ 今後の対応

建物修景補助は、建て替えや大規模修繕のときなど建物の寿命が影響してくることから、引き続き取り組み、歴史的な町並みの保全を図る。また、道路修景整備については事業完了に向けて継続して取り組む。

菅笠づくりについては、良質な菅栽培の確立や後継者育成及び販路開拓等について継続して取り組む。

市町村名	高岡市	評価対象年度	H23～R2年
------	-----	--------	---------

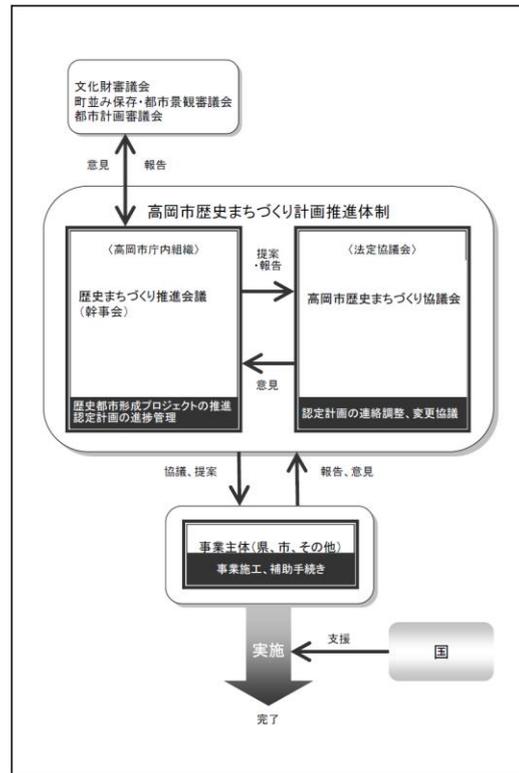
① 庁内組織の体制・変化

歴史まちづくりを推進するため、庁内に関係部局で構成する「歴史まちづくり推進会議」を組織し、部局横断的な連携の強化を図っている。

また、関係課で構成する「歴史まちづくり推進会議幹事会」を定期的には開催することで庁内調整を図っている。



歴史まちづくり推進会議の様子



歴史まちづくりの推進体制

② 庁内の意見・評価

・第2期計画では第1期計画のソフト事業をそのまま継続するのではなく新たな視点を加えていく必要がある。また、第1期計画で整備した施設等をどのように活用するかという視点が必要である。

市町村名	高岡市	評価対象年度	H23～R2年
<p>① 住民意見 （これまでのパブリックコメントにおける意見） H22 ・高岡の経済的発展に寄与してきた近代建築の本丸会館(旧高岡電燈株式会社社屋) について、これまで高岡を支え、基盤をなしてきたものを活用してこそ、次世代へと繋がるものであり、歴史への功績がある建築物に対して、感謝と畏敬の思いを表されることを望む。</p> <p>※H23～R1のパブリックコメントにおける意見は無し。</p>			
<p>② 協議会におけるコメント （これまでの高岡市歴史まちづくり協議会におけるコメント(H23～R1)） H23 ・歴史まちづくりの推進には、歴史的な古いものばかりでなく、近・現代的な新しい要素も織り交ぜて、トータルな魅力を引き出す視点が必要である。</p> <p>H24 ・重要伝統的建造物群保存地区に選定された金屋町については、伝統的建造物保存地区の本来の目的を逸脱せず、過度な観光化が進まないように注意する必要がある。</p> <p>・道路の路面整備だけでは不十分であり、周辺の建築物等の景観整備も必要である。</p> <p>H25 ・市民の機運を盛り上げるのはハードではなくソフトだと思う。市民の意識や主体的参加、もてなしの心が連動してこないと、まちづくりはうまくいかない。</p> <p>H26 ・景観計画の変更(マンセル値の設定等)については、他都市の事例等を参考に検討し、議論を進めることを考えるべきではないか。</p> <p>H27 ・終了した事業について、3年程度たった段階で、地域の活性化に繋がっているなど、その地区にどのような影響を与えたのか調査してはどうか。</p> <p>H28 ・定性的・定量的評価が事業内容の記載に留まっている。目標に対してどこまで到達したのかなど取り組みが進捗した中でも課題を認識することが重要で、それを無くして取り組みは良い方向に進まないのではないか。</p> <p>H29 ・菅笠が国の伝統的工芸品に指定されたことはゴールではなくスタートである。菅笠のニーズが限定されているため、現在の量産型流通システムが適していないなど課題も多い。常に課題意識を持って取り組んでいく必要がある。</p> <p>H30 ・伝統的なものに新しいものを採り入れたものが高岡の工芸技術であるということを前面に打ち出すためには、あえてクラフトだけを使うのではなく「KOGEI」を上手に活かした方が良いのではないか。</p> <p>R1 ・高岡市には博物館があるが非常に古い。歴史まちづくりの核になる史料を保存・公開する施設はどうしても必要である。市で整備ができないならば県立の総合博物館を誘致することを将来的に検討してはどうか。</p>			

市町村名	高岡市	評価対象年度	H23～R2年
<p>① 全体の課題</p> <p>1 少子高齢化や世代交代により、伝統産業従事者については依然として減少傾向であり、後継者不足が課題である。また、地域固有の祭礼行事についても若者の地域離れなどにより、維持が困難になることが予想される。</p> <p>2 本市において歴史的風致を構成する指定文化財等の歴史的な建造物は重要な構成要素である。国・県・市の指定文化財における保存や修理は一定程度図られたが、国の登録有形文化財など所有者の高齢化等により維持管理が困難となっているものもあり、今後もそれらの消失が懸念される。また、歴史的風致形成建造物については一定程度保全が図られ、公開しているが、まだ保全が図られておらず、公開されていないものが、半数残っている。</p> <p>3 これまでも景観形成重点地区等における建物修景補助や屋外広告物の適正化における取組は、歴史的な町並みに調和した良好な景観形成が図られ、一定の効果が得られたため、引き続き取り組む必要がある。一方で、道路修景整備についてはまだ完了していないものがある。伝統的な建築形式をもつ町家については、民間が主体となり店舗等に活用した取組が一定の成果を得られているため、さらに活用が進むような取り組みが必要である。</p> <p>4 歴史的風致を構成する建造物や活動及びこれらと一体となって形成される良好な市街地を適切に維持向上していくためには行政のみの力では困難であることが大きな課題である。また、調査・研究については歴史、民俗、産業などの資料収集・保存や調査がまだ多く残されている。</p>			
<p>② 今後の対応</p> <p>1 歴史と伝統を反映した工芸技術及び祭礼・年中行事の継承と育成 祭礼行事や伝統工芸産業の後継者不足に対する支援を継続的に行うことで、それらの継承を図る必要がある。また、地域住民や学校などへ取り組みも継続していくことで伝統工芸に触れ地域固有の歴史・文化であることを認識し、未来の伝承者や理解者へ育っていくような環境を醸成する。</p> <p>2 歴史的建造物等の保存と活用 国・県・市の指定文化財については、継続的に保存修理を実施していく。国の登録有形文化財については、所有者等と話し合いながら、必要に応じて歴史的風致形成建造物に指定し、保全を図っていく。 歴史的風致形成建造物については、所有者等と話し合いながら、必要に応じて修理を行い、保全を図る。また、保全が図られたものについては、その価値を広く周知し、本市固有の歴史資産の魅力を知ってもらうため、公開に努める。</p> <p>3 歴史的な町並みの保全と周辺環境の調和 建物修景補助や屋外広告物の適正化における取組は、引き続き取り組むことで歴史的な町並みの一層の保全に努める。また、道路修景整備については、未完了の2路線について引き続き取り組む。 伝統的な建築形式をもつ町家等について、行政以外の活力を生かした活用を推進するような取組を進める。</p> <p>4 その他 各種民間団体が実施するイベント活動を継続して支援していくことや市民参加型の取り組みを推進することで多方面から高岡の歴史や伝統を再認識を図る。また、調査・研究については未完了の事業も含め、引き続き、歴史、民俗、産業などの資料収集・保存や調査を実施する。具体的には、高岡鑄物資料については、高岡鑄物資料のデータベースは整備したので、引き続き市の博物館及び美術館に所蔵されている鑄物資料について調査に取り組む。</p>			